



諺話
百司
説

山東京傳作

へ13
2056
15





謠下司話談自叙

人の撒の屁ハ臭い。我撒の屁ハ臭くも好。
おもしろいぬも大坂下の花屋敷男坊様屁を登て
見れぬ臭も上等乃屁の色も作り香も
放屁別傳了り支珠支利の菩薩も屁を引て
尻をすやめ凡夫等屁完乃らたらん
すべし人其の百目の説法も唯屁一つと洗
ぬ。我人の屁を臭くし人亦臭く屁を臭くし
せん。一薰一染尚臭く臭く事有り。柳ハ翠屁ハ黄
色も香も撒り人ぞいふ

寛政八丙辰春

烟草袋舗よめ

山東京傳戯題



通油町



葛屋三郎叔







あんのの
八のせうん
おまんの
くまんの
よのまれの
ひそのよ
ひそのよ

あんのの
これのの
くまんの
ひそのよ
ひそのよ



あんのの
八のせうん
おまんの
くまんの
よのまれの
ひそのよ
ひそのよ

あんのの
これのの
くまんの
ひそのよ
ひそのよ



此の世の人の心は
 何れもわが心と
 思ふがごとし
 人の心は
 何れもわが心と
 思ふがごとし
 人の心は
 何れもわが心と
 思ふがごとし
 人の心は
 何れもわが心と
 思ふがごとし

信原の世



此の世の人の心は
 何れもわが心と
 思ふがごとし
 人の心は
 何れもわが心と
 思ふがごとし
 人の心は
 何れもわが心と
 思ふがごとし
 人の心は
 何れもわが心と
 思ふがごとし

信原の世

赤本先生曰
はいーやん
何故は系雪
とりの石ま
のふしはる
は防いまだ
たのり





赤木先生
 4 國の
 ハヤチウナ
 且正八道
 心かやま
 まうてい





京傳作

何れも男のくわし... (Text continues in vertical columns)
 まるごとく...
 さあ...
 ... (Additional vertical text)

ボイ... (Vertical text to the left of the man)
 ... (Additional vertical text below the man and box)

葛屋重三郎扱





話 諺
説 百司

山東京傳作



